

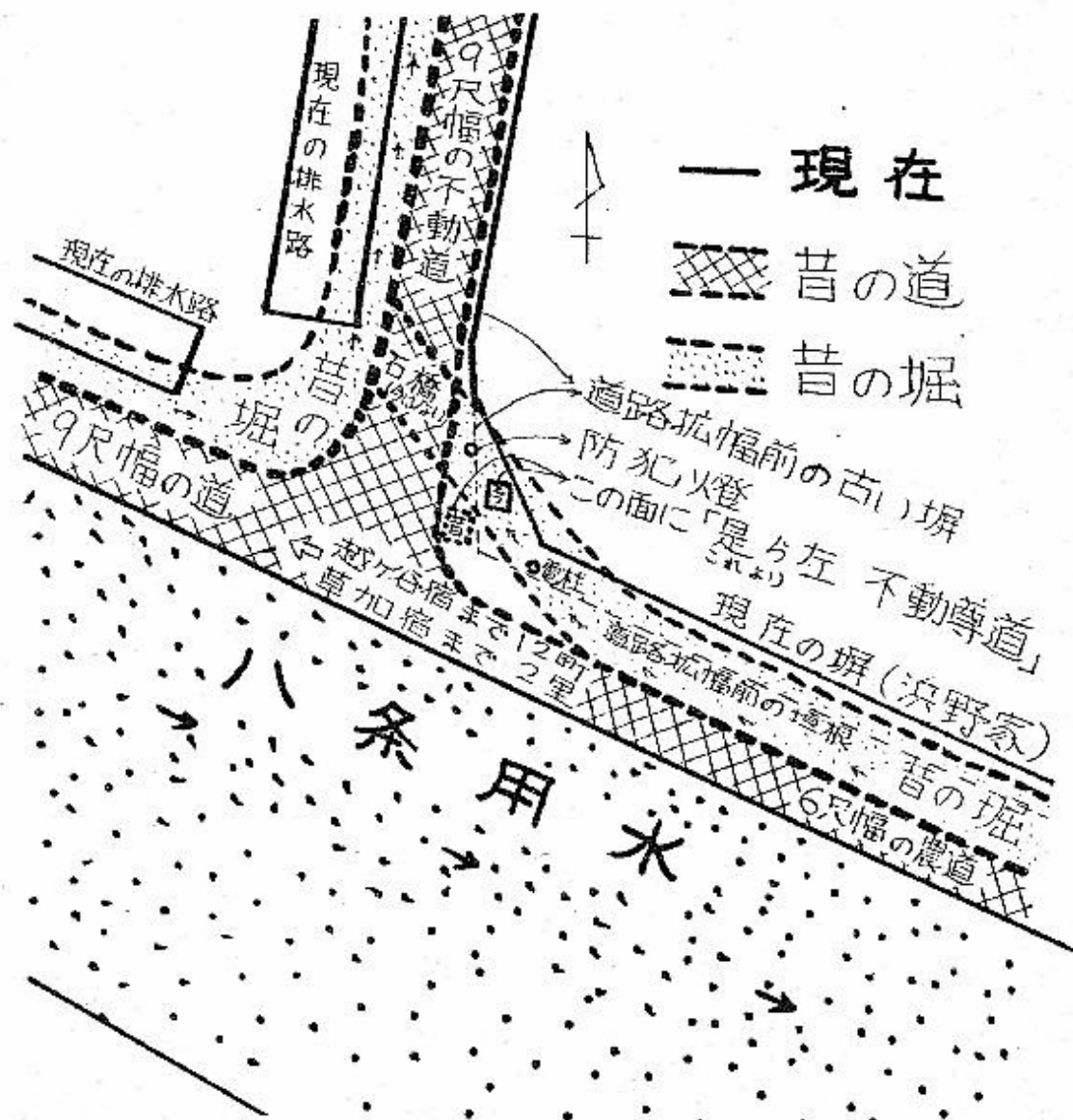
「ばとうかん」(屋号)脇の不動道の道しるべ

加藤幸一

1. 「ばとうかん」と不動道の道しるべ

「馬頭観」(ばとうかん・ばとかん)とは、この道しるべが建っているそばの決野家(相模町2-213)の屋号である。道しるべに馬頭観音像が描かれているためいつの頃からかこう呼ばれた。「ばとうかん」宅の前にある八条用水に沿った道はかつて六尺幅の農道で、この農道の北側沿いは排水用の堀(落とし)があったが、昭和37・8年頃の土地改良の時に埋められる。次に決野家の道路側敷地の採納により昭和47・8年頃に道路が拡幅された時、この道しるべは決野^{いづか}氏とその弟により斜め後方に移動された。そして今日に至っている。(平成元年現在)

下の地図は決野生男氏の協力によって当時の道しるべや道・堀の位置を描いたものである。道しるべは昔も今も西に向いている。



2. 道しるべに描かれた馬頭観音像

この道しるべの正面には、線刻された蓮華台の上に馬の頭を頭上にかかげた三面六臂(三つの顔と六本の腕)の馬頭観音が陽刻されている。顔がのっぺらぼうのようになる程、表面がかなり磨滅しているが、中央の手は合掌し、上の左手は宝輪を、下の左手は宝棒を、上の右手は矛を、下の右手は斧をそれぞれ持っていると思われる。かつては馬頭観音像の前に籠を敷いて、毎年8月8日に地元の人々によって観音経(観世音菩薩普門品)が読まれたという。

馬頭観音は、江戸中期以降、馬を使用する人々によって信仰がさかんになり、馬の供養や馬の無病息災の祈願をこめて各地に馬頭観音の石塔が造立された。そして時代が下がるにつれて特定の死馬の供養のため、墓標としての石塔も出現してくる。

3. 道しるべの両脇の文面

向かって右脇の面に刻まれた文面によると、この世とあの世の二世の安樂のため武蔵国と下総国の馬喰講中が共同して奉納したものとわかる。当時は西方大聖寺(不動尊)の不動信仰は広範囲の地域をまきこんでさかんであったことを物語る。そして、各地からの参詣客で絶えなかったのであろう。この石塔の願主は、石塚長利氏(相模町1-331-1)の先祖である石塚長治郎の名が刻まれている。石塚家はこのあたりの馬喰のかしらを代々務めた家柄で、代々「長治(次)郎」を名のったのである。現在でも名前に「長」を付けているのはそのためである。地元では、石塚家(「馬喰長」)を関東の馬喰の親方との言い伝えさえもある。馬喰とは馬や牛のことに詳しく、馬や牛の売買や仲介・貸し借りなどを業とした人で、農耕に使う牛馬を牧場などから農家に供給したのである。当時の馬喰たちは日頃の馬に対する感謝と、馬の供養や馬の無病息災、人々の旅の安全の祈願もかねてこの道しるべを造立したのであろう。なお、この面の左右には「草加^よ二里」(7.9km)、「越ヶ谷^よ十二丁」(1.3km)と刻まれ、旅人や不動参詣者の道程のめやすとなったろう。一方、向かって左脇の面には「是^まち左 不動尊道」と不動道の案内が刻まれている。また、「明和七 庚寅 十月吉日」(1770年)との紀年銘もあり、江戸中期、(今から約220年前)にこの道しるべが建てられたことがわかる。

4. 道しるべの上に載る不動明王像

馬頭観音を描いている道しるべの上に、この馬頭観音とは全く関係のない仏さまである不動明王像が異質の石材で作られて載せられている。馬頭観音(馬頭観世音菩薩)は菩薩の部類にはいり、不動明王より上の位である。この二つの仏像が上下に置かれていること自体不自然であり、更に同質の石材でない、不動明王像(紀年銘なし)の台座(磐石座)の幅が馬頭観音の石塔の幅より大きくてはみでていることなどから考えて、不動明王像は建立当初から載せたのではなく、後世の人が不動道の道しるべにちなんで載せたのかもしれない。そして、この不動明王像を載せたおかげで、西方不動尊への道案内としてとてもめだつ目じるとなったであろう。

この不動明王像は、岩の形を表わした磐石座の上に結跏趺座(座禅の座り方)で

坐っている。裳（大きな布を巻スカートのように下半身に巻きつけて身につけたもの）の中から出た右足の足の裏がみられるのはそのためである。頭髮は莎髻と呼ぶ花形の髻を結び、目はつりあげて怒りの顔つきをし、右手に煩惱を断ち切る劍、左



30cm
20
10
0

是乃
不動尊道
明和七庚寅
十月吉日



草如延二里 武藏下総
奉納爲二世安樂 馬養講中
越谷延十二丁 當所願主
石塚長治良

手に煩惱をしばる羅索らさくを持ち、納衣のうえ（大きな布を肩からはおって上半身に身につけたもの）は、両方の肩をおおし通す通肩つうけんの着こなしをし、背にはあらゆる煩惱・障害を焼き尽くす大火炎を背負っている。この火炎光背は、不動明王の頭上あたりを通って斜め横に割れたのを、接着面とともに穴をあけ、けやきの太い棒を両方の穴に入れて支え、セメントで再びつけなおしているが（このことは、浜野生男氏が再補修した時にわかった）、その割れ目の跡が歴然とわかる。また、上部の一部が欠損しているのが残念である。なお、火炎光背の中に、口から火炎をはき、竜を捕まえて常食とするという迦楼羅かろうらと呼ばれる鳥が見られる。

5. 不動道と門前町

次にあげる3枚の不動尊の不動道と門前町の地図は、昭和35年発行の「越谷市の史蹟と伝説」のp143に載っている不動門前町の略図（高崎力氏作成・下図）をもとに、昭和63年10月の野口茂太郎氏（相模町3-1 明治40年5月生まれ）への聞き取り調査を始めとして、浜野生男氏、野口正氏（相模町2-194）、田村晃あきら氏の母堂（相模町6-457）、林正一氏（相模町5-251）らの協力を得て作成。

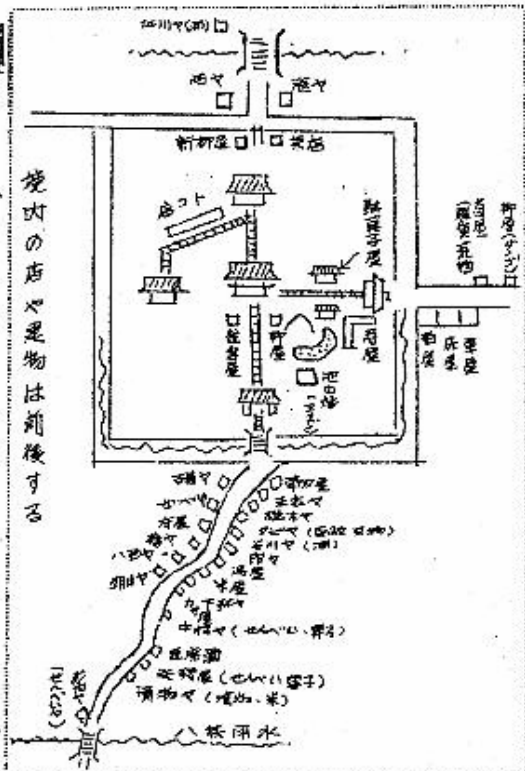
不動尊に続く不動道の両側には商店が集まり門前町ができあがっていた。大聖寺（不動尊）の寺領60石の地を耕作していた人たちを「門前百姓」と江戸時代呼んでいたが、彼らは主に、大聖寺の門前に屋敷を構えていたためこう呼ばれたのである。そして、明治・大正・昭和の頃まで不動参詣の客を相手に茶店・小料理屋・酒屋・駄菓子屋・湯屋・髪結・たび屋・車屋（人力車）など軒をつらね農業のあい間に商売をして大変にぎわっていたのであろう。昔の不動尊の門前町だった名残りが彷彿される。

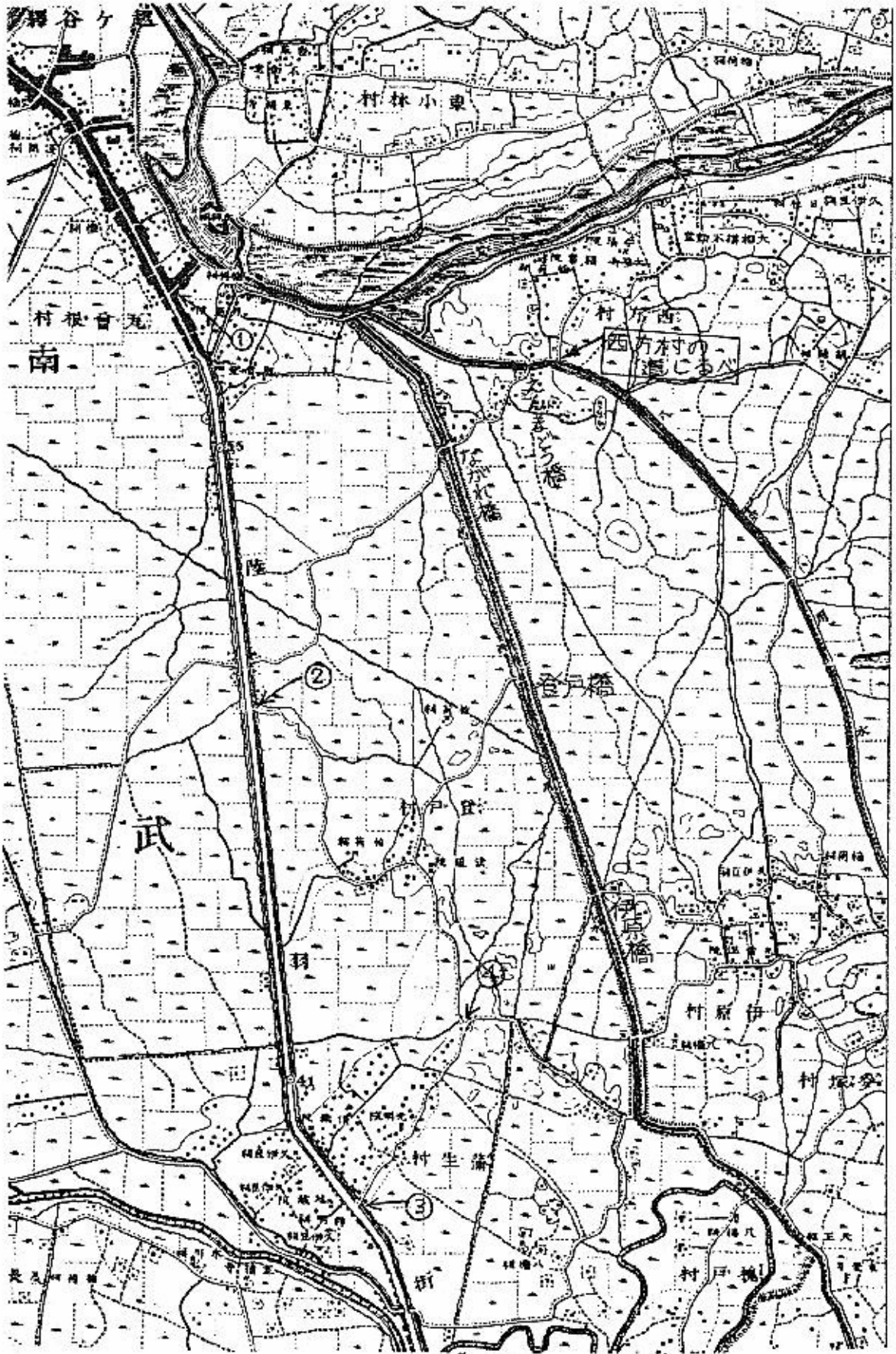
門前町の様子については、「越谷市の史蹟と伝説」の中で、高崎力氏たかきりくによって紹介されている。

これによると、草加屋、末広屋、宿屋〔？〕、寿屋、朝日屋〔旭屋〕、山崎屋〔湯屋〕、新柳屋〔新店〕、植木屋、港屋等は料理店であり、常時三十人以上の女中〔座敷女中〕が働いていたそうである。そして、これらの女中さんの中の数人は近在に嫁つぎ、「史蹟と伝説」が出された当時は、子や孫に囲まれ、幸福な生活をしていたそうである。

また、境内にはトコ店も置かれていたそうである。トコ店に関して、及び門前町の出火について、次のように書かれている。

トコ店とは人が往まない出店にて夜は見どんを閉ざし昼は見どんを上げてヒサシとした。日用、小間物装身、化粧等を売り、不動様へ

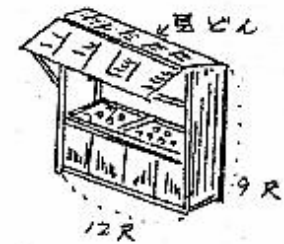




五里川村

流山村

行けば殆んど品物が間に合ったという。八軒から十二軒あり、一間の大きさは九尺×十二尺で次の人達が出店をもっていた。〔右の資料を参照のこと〕



さしも栄えた門前町も明治二十二年十月九日の山崎湯屋からの出火で十七軒炎上したがその後復興し、昭和四年今度は〔齊藤〕せんべい屋からの出火で又も七軒を焼き、その後だんだんと離散する者多く、今日の如き衰微を来たしたのであるが、今日でも〔9月4日の〕大祭〔大会式・梨市〕には帰ってきて露店を出す人もある。特に南の門前町は殆んど寺領地にして均

| | | | | | | | |
|----|-----|-----|----|----|-----|----|----|
| 越谷 | 大相模 | 大相模 | 増派 | 増林 | 一丁目 | 何畑 | 何畑 |
| 吉沢 | 田村 | 松沢 | 桑谷 | 尾川 | 会田 | 桑谷 | 賀川 |

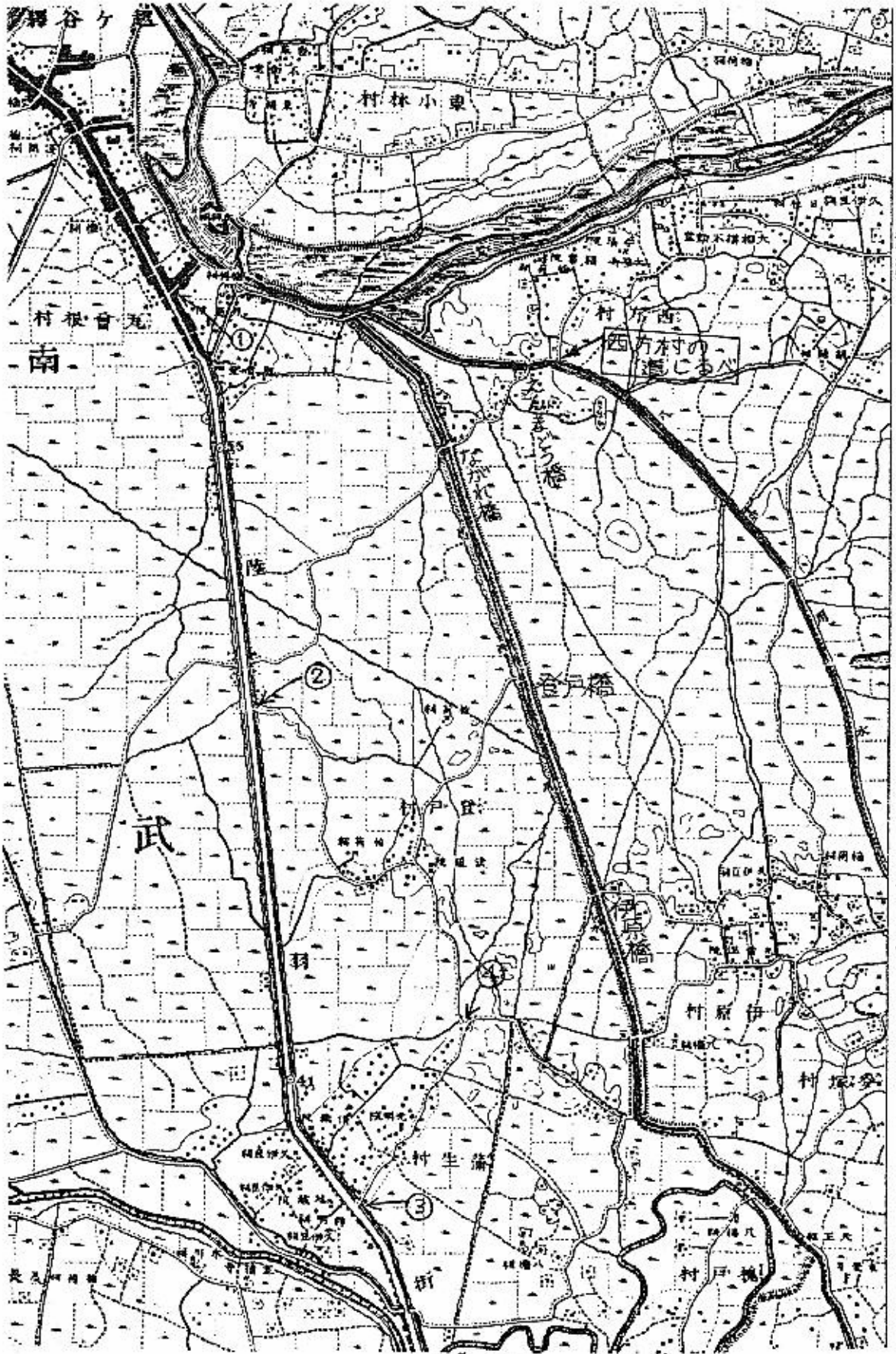
等割で貸していたもので収入がなくなると寺に行けば何とか食わせてもらえるというので、すべての経済は寺につながっていた。(以上、)内は筆者が付け加えたもの

6. 近郷に点在する不動尊の道しるべ

4ヶ所をここに紹介する。次のページの明治初期の頃を表わした地図(陸軍部測量局による明治十三年測量の縮尺二万分の一の迅速図)の中に4ヶ所の位置を①～④で記入した。これらの他にも近郷にはたくさん不動尊の道しるべが点在していたと思われるが、かつてはそこにあったのに今はないもの、壊れてしまったりして粉失したもの、今でもあるものなど不動尊の道しるべに関する情報がありましたらご一報下さればありがたく存じます。

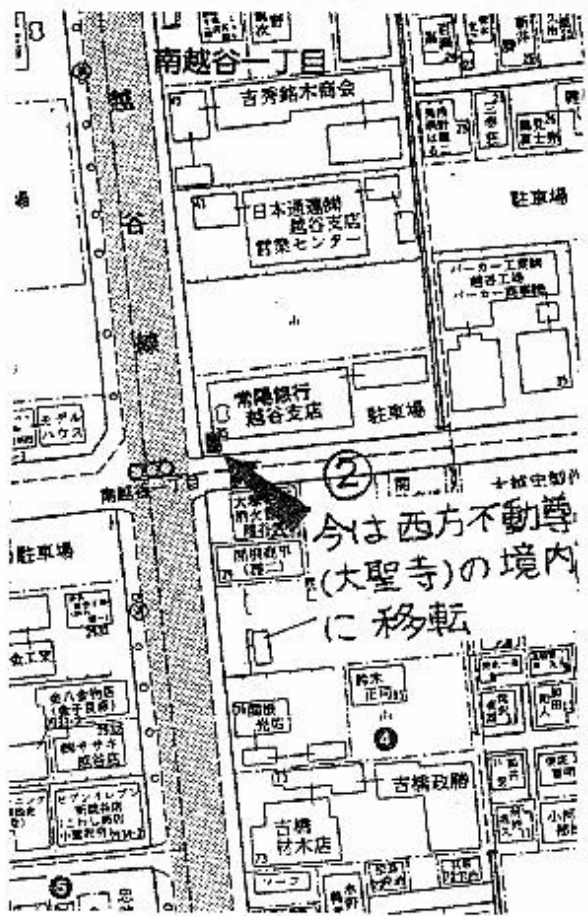
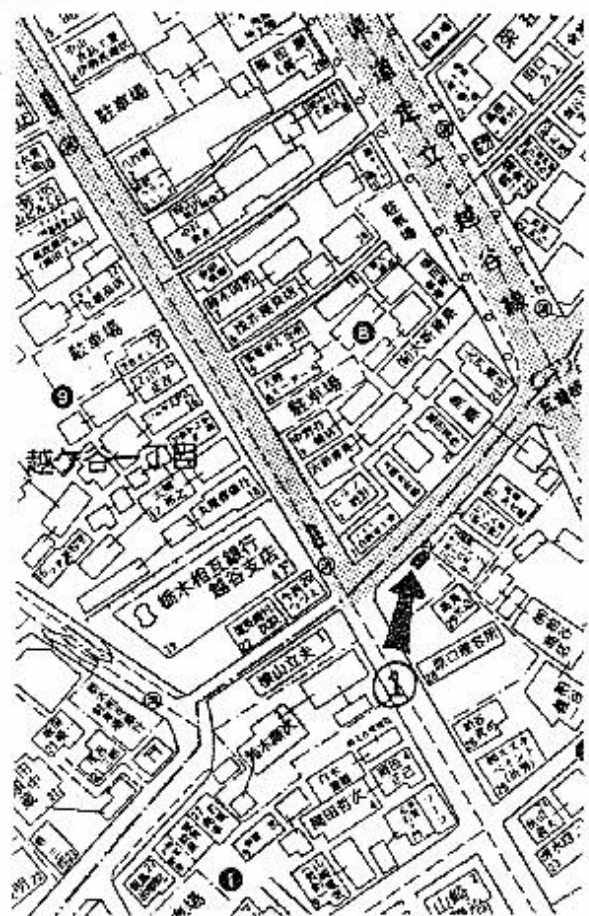
- ① 正面 「是よ里 大さかミ道」
上に、不動明王像を載せる
建立日 寛保元 辛酉年 十一月(1741年)
- ② 正面 「是ら 大さのみふど道」 ら=より ん=が
上部に 不動三尊の種子(梵字)が刻まれている
建立日 文久二 壬戌年 五月(1862年)
- ③ 正面 「是よ里 大さかミ道」
上に、不動明王像を載せる
建立日 享保十三 戊申 九月廿八日(1728年)
- ④ 正面 「是於 大さかミ道」
建立日 正徳三 癸己歳 正月二十八日(1713年)

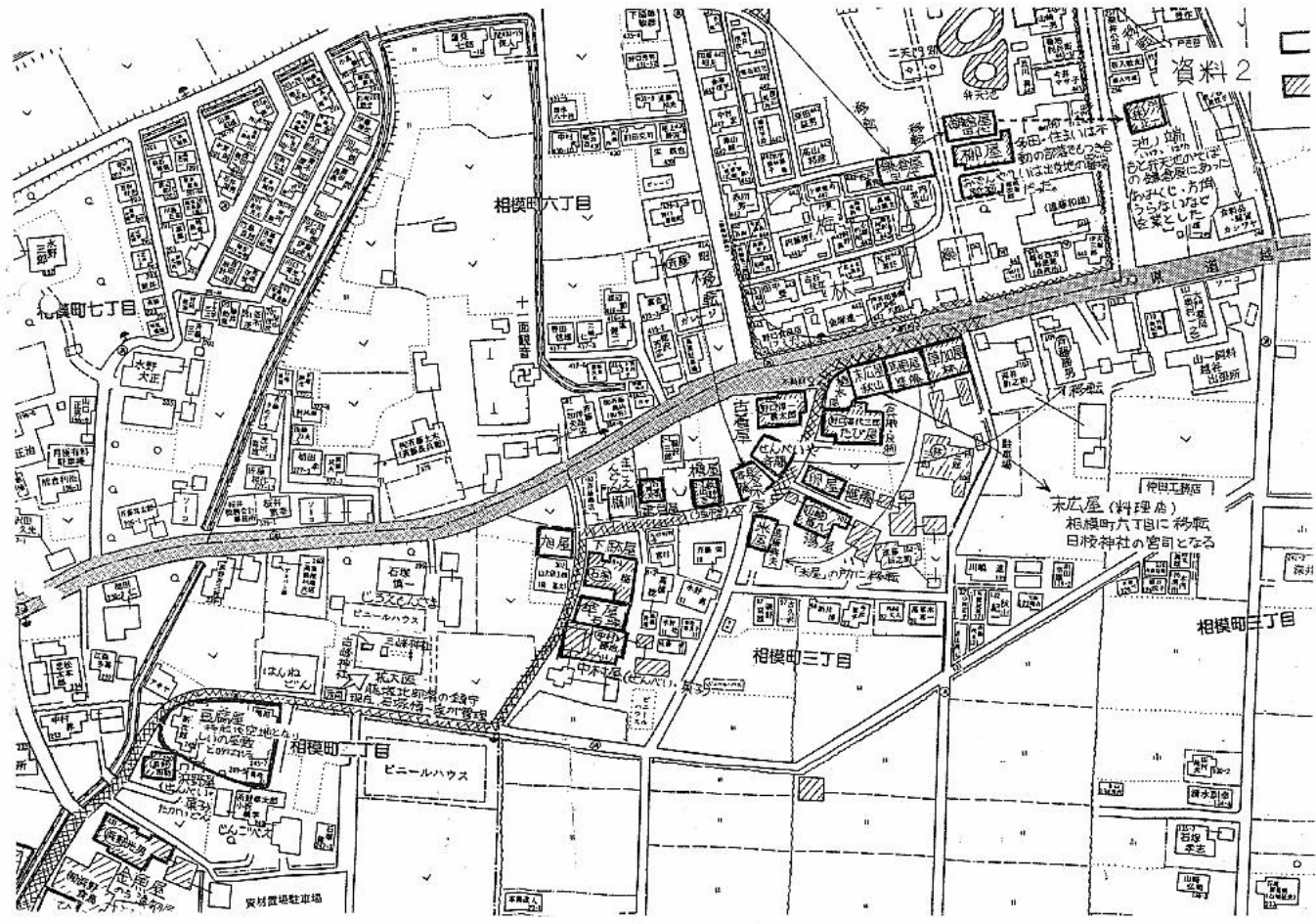
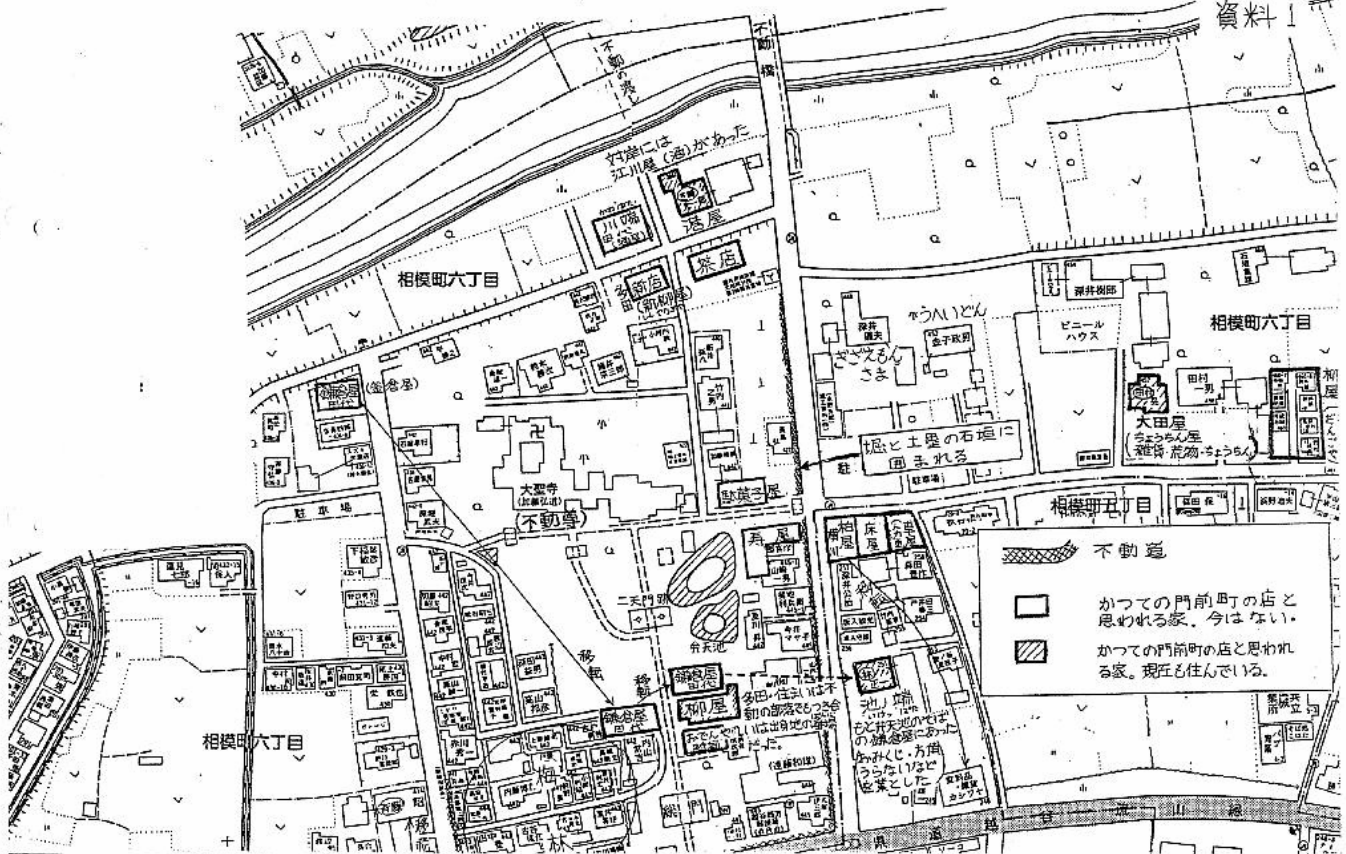
なお、上記の紀年銘に続いて、「大聖寺 法印 隆園 建因」と刻まれている。このことより明らかに「大相模不動尊」への道案内を目的としていることがわかる。

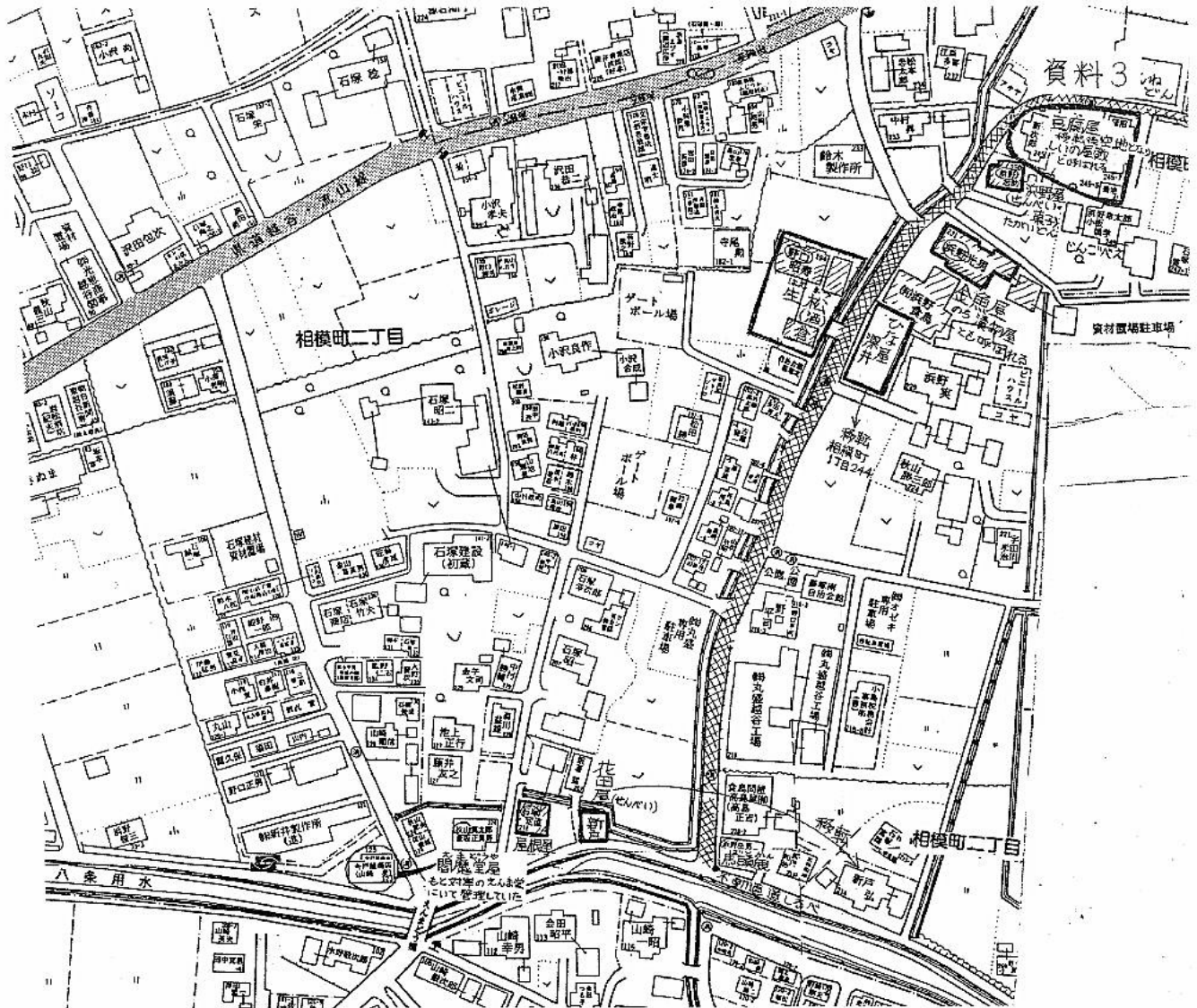


五里川村

流山村







資料3

相模町二丁目

相模町二丁目

八条用水

花音 (Cafe)

石塚建設 (初蔵)

小沢良作

鈴木製作所

公園

事務所

資料3